

今回の課題は動詞の「化ける」。かなり幅広い概念をもったコトバで、解釈のしかたしだいで広がりが出そうである。

逆に安直に考えると、発想を限定してしまいやすいという危険性も孕んでいる。「化ける」から「化粧」、「タヌキ」や「キツネ」といった連想は、既に手垢がついて古い。よほど新しいテーマと組み合わせない限り、新基軸の作品にはならない。「幽霊」や「妖怪」は、既に「化けた」ものであり、「化ける」という題意の動作を反映するには難しい題材。それでも多くの発想がここに求められたのは、化けたものと化ける行為を安直に混同しているようにもみえた。テーマ別にちよつと作品を見ておこう。

## 【化粧・衣装】

- 1 浴衣きて少女は化ける女へと
- 2 化粧取りインナー取ればあなた誰？
- 3 化粧ではもう化けられぬ年となり
- 4 嫁ぐ朝 親をもだます 化粧栄え
- 5 進化する化粧学というメイク術
- 6 存分に化粧ができる専用車
- 7 厚化粧酔えば色香を増す花に
- 8 化学（ばけがく）を必修とする女学校
- 9 本物の恋に虚像はいらぬはず
- 10 器量良し厚化粧が個性消す
- 11 結び上げて帯決め化ける跳ね返り
- 12 少しだけ悪ぶってみるサンングラス
- 13 おめかしは念入り女装警察官

1の化粧や衣装で「少女↓女」という構図は同想句が溢れている。2、3の自嘲は面白いが、これも既に古い。4の表記は、わざわざ「五七五」とあけて書く意味がない。5、6には、やや新しい素材が取り入れられているが、作品の完成度として弱さがある。12のサンングラスで化けるぐらいでは、もう誰も驚かない。次の二句は多少アピールがある。

- 14 バッチリと化粧しはるな愛出来る
- 15 変身の術で時には丸くなり

化粧系で内容がある作品としては、  
フラダンス大化粧したねお母さん ゆみこ

化けの皮落とし素となる皺の中 ヨシ江

化粧する車内で尻尾出したまま 章友

## 【タヌキ・キツネ・化ける動物】

- 16 雌狐に財布も妻もすりとりられ
- 17 人生は狐たぬきのばかし合い
- 18 化かされた狐の数を数えてる
- 19 野党から与党に化けるためき達
- 20 狐より狸のほうがお人よし

「化ける」動物をテーマにしたり比喩に用いたりした作品も多かった。狸も狐もばけるものという概念に寄り掛っている。概念からあたらしいものを導き出すには、何か発見になるようなモノと結びつける必要があるが、16と20は、比較的当然の内容。多少面白いものとして、

化け方を忘れたたぬき山を降り 新山  
には、ニンゲンを重ねた深さがある。

## 【幽霊・お化け】

- 21 淋しくて たまに女房に 化けて出る
- 22 化けの皮はがす幽霊同居人
- 23 三面のニュースがお化けより怖い
- 24 21には何とはなしの面白さがあるが「たまに女房に」の「に」の方向性と「淋しくて」の主体、「化けて出る」の主体の関係が判りにくい。  
句としてイケそうなお化けは、  
ただの岩「お」がっただけで怖くなり 栄七  
ほんおどり人は異界に化けてゆき 孝治  
愛猫が化ける準備の爪を研ぎ 世直士  
天井の染み幽霊になる喧嘩 夏多感  
が水準であると思う。

## 【仮面・なりきり】

- 24 顔見せず声だけ孫になりすまし
- 25 ペルソナを被り忘れた聖職者
- 26 煽て上げられてポーズを崩せない
- 27 メロン味だと化かしてるメロンパン
- 28 奔放な仮面で夜を這う少女

「仮面」「なりきり」による化けようも発想として多い。特に「仮面」は、句会における常套語として手

垢にまみれているので、使う場合には斬新さが求められる。聖職者や少女では弱い。24の「オレオレ」もこの類。26には、心理が感じられ、この中では良いだろう。

露地を出て余所行きの顔する女 山月

出身地言えぬ鰻も飾られる こまり

「露地を出て」には、「化ける」の動作だけでなく、人間の本质が描かれ、「出身地」には、時事性が描かれた。

### 【変化・成長】

- 29 クリックに全霊賭けてネット株
- 30 リストラで黒字に化ける大企業
- 31 コツコツが実り大きな花が咲く
- 32 定年後待ちます鶴の恩返し
- 33 平成の鳶が願うは王子様
- 34 大阪の儲かるこそが恐るべし
- 35 簡単に鳶は鷹に化けはせぬ
- 36 子へ投資何に化けるか神ぞ知る
- 37 夏祭り草食系に宿るオス
- 38 村長はワルでならした元不良
- 39 法人が生き残りかけ化ける術
- 40 魔法でもかけてみようか国技館
- 41 失恋をして花代が酒に化け

大きな変化を見せることや成長による変かも「化ける」といい、ここではそういった題材が使われた。40が、ちよつと感じさせるものがある。

この一句まさか大金呼ぼうとは 由実  
いつの日か化けるつもりで息ひそめゆかり

親切を両替してはボランティア 夏多感

給料が飼葉に化ける競馬好き 準菜

の四句は、言い回し等の細かな面で完成度を上げて欲しかった。

その他のテーマで、比較的鮮度のあった句は、

2次元を欺瞞している3D 由実

夏の夜草食系の肘つつく ゆかり

愛情が憎悪に変わる化学式 勲

### 課題 「化ける」 入選句

人間に化けてタヌキが病んでいる 橋本祐子

都市化によって里山を喪った狸は、ジブリの「平成ポンプコ合戦」ではないが都市との関わりを深くせざるを得ない。句の表面は、そういった野生狸を描いているが、現代社会の中で真に病んでいるのはニンゲンであるという作者の見方が下敷きになっている。

\*

裏金が化けてやっぱり裏のまま 春爺

「化ける」を読み込んだ構造ながら、裏金というものの本質を見据えることで「化ける」の題意を見事に反映。

人間に戻る上司は女装して 胡麻太郎

この句も、題意からニンゲンを見詰めようとした作品で、一例を切取ることにより現代社会を描いている。

\*

どの仮面つけてあなたに取り入ろう 山月

妖怪を目指してるよな付け睫毛 伯林

半日も無口装う肩の凝り ヨシ江

説教が文字化け起こす酔っ払い 夏多感

お七にもお岩にもなる女たち 勲

ナイフにも桃にも化けてきた言葉 飯島章友

### 総評に替えて「既成概念から出よう」

句会や公募の川柳募集はたくさんある。そこで入選する為には、選者の好みや募集主体の意図を汲み取ることが求められるが、文芸としての自立とは次元を異にする。この「課題研究」では、これまでに無い川柳を生み出すことを主眼に、できるだけ既成概念を脱ぎ捨てたところから作句に臨んでいきたい。

### 「やぐら」会員募集

本格的に川柳を楽しんで見ませんか。川柳誌への投句により川柳センスと表現技法を磨き、文芸として作者の分身ともなる川柳作品を作ってみましょう。

川柳のある豊かな生活に「さくらぎ」は貢献します。

